

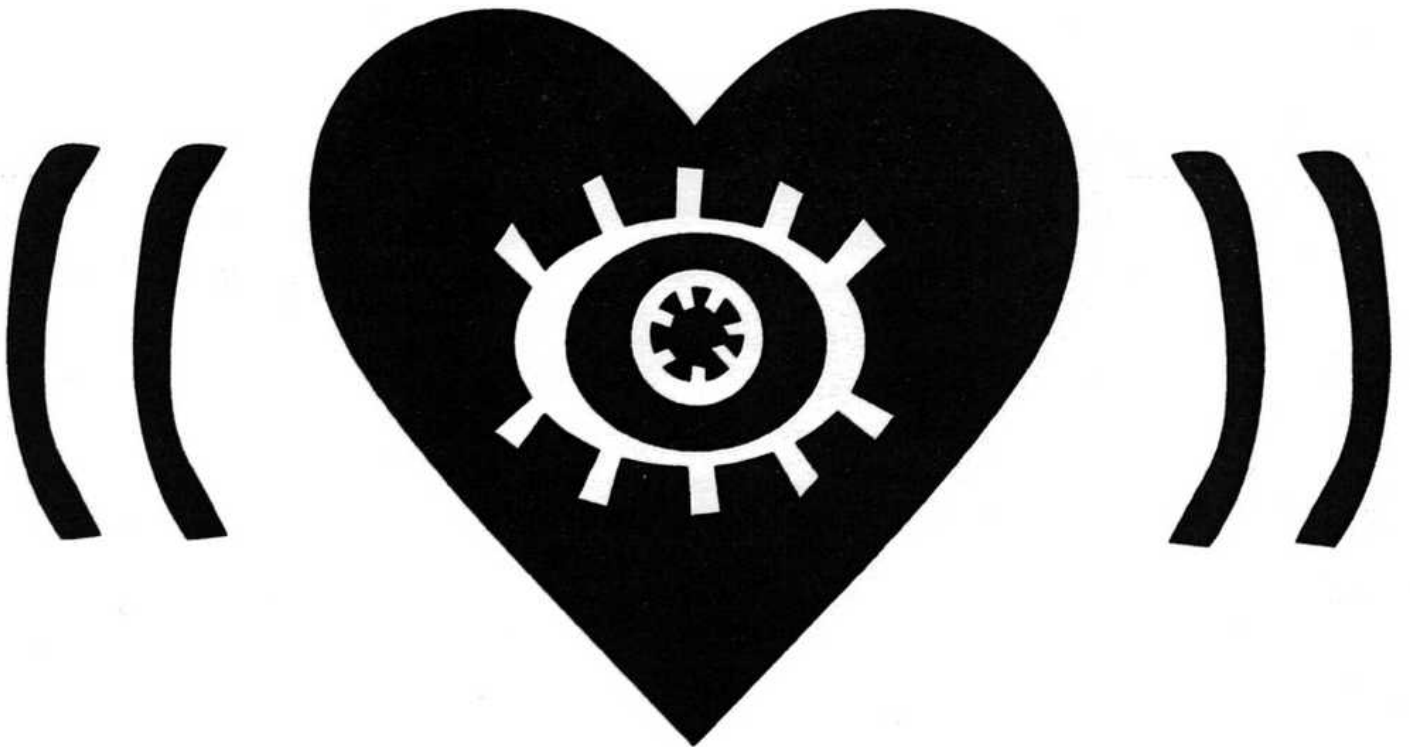


A small devil enchanted
the Shade Witch...

© MAGENTA
---TOUHOU PROJECT FANBOOK---
(((♥)))
Presented by
GLAIL VOYANCE

©

MAGENTA





最近図書館の蔵書が増えすぎちゃって私一人だと全部管理しきれなくなっちゃって... いい機会だから優秀な使い魔でも召喚して色々手伝わせようと思うの。
うちの館かなり人材不足だし...



そっよ...



え？
使い魔？



あはは...
いったいどんな使い魔を召喚するつもりなんですか？
魔女の使い魔と言ったら私は猫とか鼠とかしか思いつきませんが...



召喚の準備は既に整ってるわ...

なんだか色々間違ってる気がするわ...



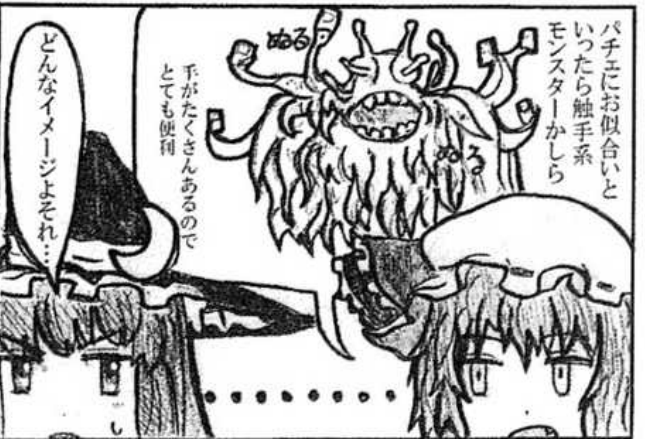
うん...
どんな使い魔が召喚されるのかは、召喚してみないと分からないわ。
でも一般的に使い魔は召喚者に最も相応しいものが召喚されると言われているわね...



いでよ！
私の使い魔！



まあ見てなさい、私に相応しい最強で優秀な使い魔をサクッとやるわっ！



どんなイメージよそれ...

手がたくさんあるのでとても便利



あれっ？



.....

ちまっ



一体どんな使い魔が...

出て来るかしら...





どうしてこうなった…

契約で誓いのキス？

そんな事召喚の手順に書いてあったかしら…

まさかあの吸血悪魔法螺吹いてるんじゃない…

アイツめ…

でもこんな小さい子にあんなこと

言わせといて私が拒否したら…

一回呼んじやつたらもう元の場所には戻せないし

追い出すわけにも…

キス…キスね…

私まだ一回もしたことないのに…

まあ誰かとする

予定ないししたい

と思つた事ないけど

私の初めてが

こんな小悪魔とだなんて

しかも女の子って…

仕方ない。パツとやつて

パツと終わろう…



～少女契約中～





信じられないわ... まさかとは思ったけど... 今ので確信を持てたわ...

レイン... 美鈴...



よかった...

一体どうしたって... いうのよ...



あ、起きました



魅了をかけた者は術者には逆らえない... 従順な下僕に化すわ

幻惑系の魔法のひとつで、まあ一種の催眠術みたいなものね



魅了魔法? あの子ってあの小悪魔にして事?

簡単かというと特定の相手を用いた魔法よ

ちゃ〜む? なんです かそれ



どうやら私... あの子に

魅了魔法をかけたのよ... みたいなのよ...



って事は何か? さっきはあの子のあられもない姿を見て興奮のあまり卒倒しちゃったわけ?

うるさいわね... ちよつとびつくりしただけよ...



あ

あんな名前もない小悪魔なんかがあつかえるなんてね... 一応私も使えないこともない



その中でもカゲ部の悪魔や吸血鬼の目は魅了の魔眼や相手を魅了魔法をかけた事で相手が魅了魔法をかける事ができるのだけだ



あなたはあの時極度に動揺していた



美鈴、契約の儀式のときパチエと小悪魔は何をしたんだったかしら?

魅了のかけり易さは対象の精神状態によって大きく異なるわ



あなたたちだつてあの子の目くらいて見たでしょ?

つていうかなんであんなには平気なのよ



それはね...



なにでキス... キスですよ...



魅了魔法は普通自分勝手な小悪魔の手にくたかるとか動揺や物なれど虫? しりゃあ普通いじわるさ程度の上



あれが... あれのキスが...



「キス」

それが今回の原因よパチエ



何それ? じゃあ私はあの小悪魔以下で畜生虫けらと同等レベルってこと?

ただし

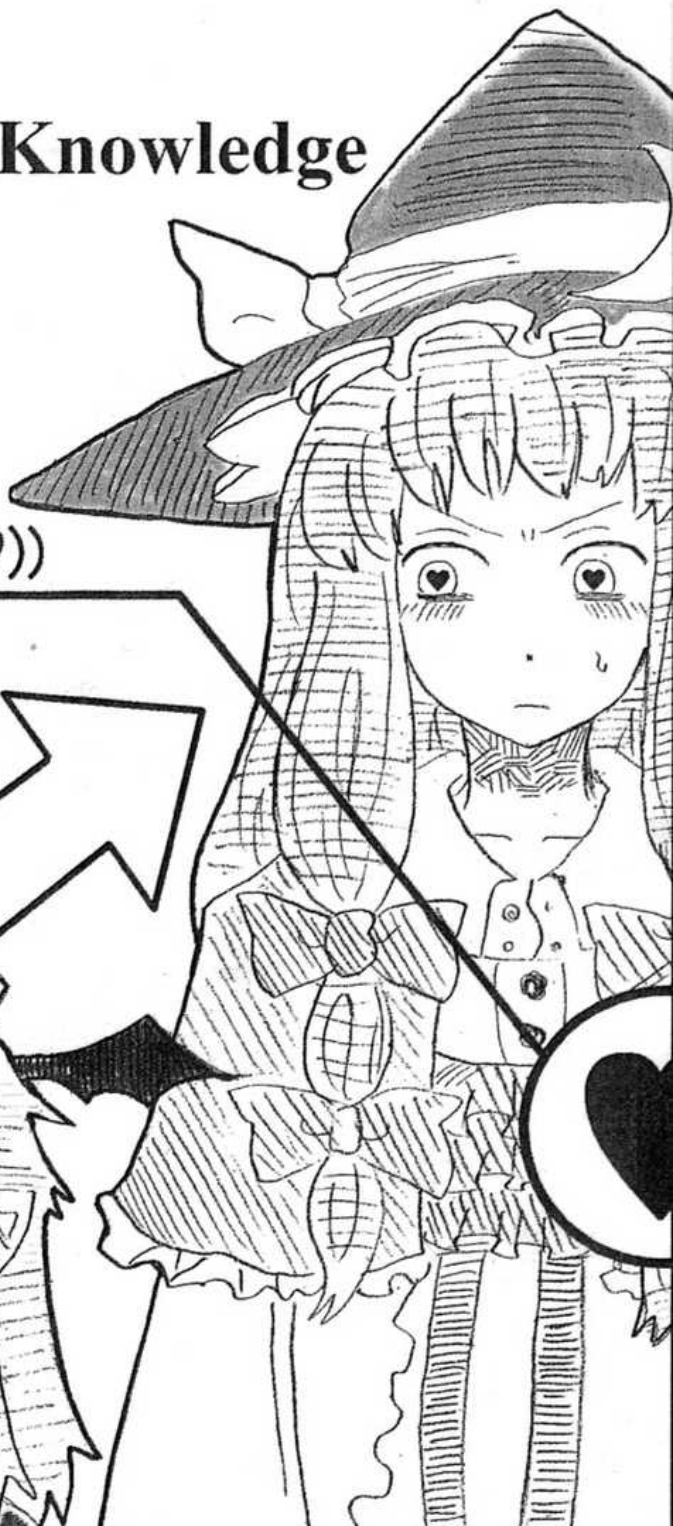
Patchouli Knowledge

Bat state ↓↓

State of Charm ((♥))

EnchantCharm 

Small Devil 



小悪魔が紅魔館に来て今日で
2週間が経った…
彼女も私の使い魔として
この紅魔館に慣れてきたようだ
よかったよかった…



…良くないっ！

何故ならば彼女に
かけられた魅了が
未だに解けていないからである



一体いつになったら
解けるのよ…



それにしても
恐ろしい魔法だわ
魅了魔法…



あの子が愛しくて
たまらない…
近くにいただけで
胸がドキドキして苦しい…

ああ小悪魔かわいい…
なんてかわいいのだろう小悪魔



パチュリー様 ♡



小悪魔が紅魔館に
来てから
数十年の時が流れた。



容姿がほとんど変わらない
私たちとはうって変わって
彼女だけは肉体的にも
精神的にも成長した。

成長



現在は図書館の蔵書が
さらに増えてきたため、
メイドの仕事は美鈴に任せ
図書館の司書として働かせている

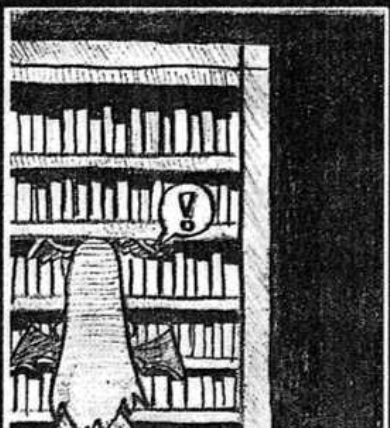


彼女は私の使い魔として
よく働いてくれている…
図書館での生活も有意義だ

ただ一つ不満がある
とするならば



私にかけられた「悪魔の呪い」
は未だに健在である…
ということだ



頼んでおいた魔道書の資料、集まったかしら？



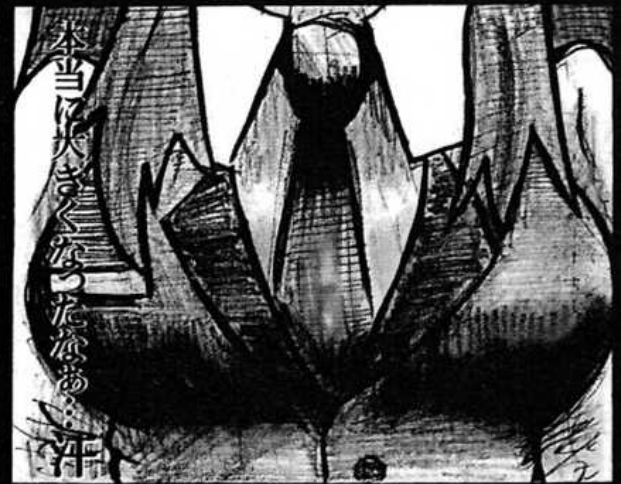
はい、取りあえずこれだけ集まりましたけど、足りるでしょうか？



それにしても、あんなにちつと、あんなに大きくなつたなあ、ええ、これだけあれば十分よ



うん、大きくなつたなあ、身も心も、力を超えちつたし、美少女も、ちつと、か、い、か、し、ら、？



本当に大きくなつたなあ、汗



..... どうかなさいましたか？ パチユリー様...？



なんなんでもないわ、さうそく、その本を書齋に持つていつて頂戴、わ、分かりました



よいつしよつと... クラ、プル、プル



ちよつと... 大丈夫？ だ！大丈夫です



うわっ、ズル、こて...



ちよつ！ 危なつ！

バタバタバタ





自分にそういう能力がある
 ということは昔から知って
 いました。そして初めてパチ
 ユリー様と契約を交わした
 とき、パチユリー様に
 魅了をかけたことも……



……あなたどうして
 そのことを……？



それなのに私は
 叱られるのが怖くて
 知らないとふりを
 してました。私の
 魅了は放つておいて
 も2週間程で効果が
 消えてしまうからです。



だまってごめんさい……
 昔は自分でうまく力を
 使えなくてあの儀式の
 時に間違えてパチユリー
 様に魅了魔法をかけて
 しまったんです。



今になつても



どうの昔に魔法の効果
 は切れているのに……

それなのにいつまでたつても
 何故かパチユリー様は
 私のことを魅でいてくれています。

そんな…
魅了が解けている
のならどうして私は
今でも…

まだ気づかないん
ですか？
それはその気持ち
がパチユリー様の本心
だからではないのでは？



なっ…



なにそれ…
じゃあ私はあなたの魅了魔法
関係なしで本当に貴方の事が
気になっているとでもいうの？
笑えないわ…

そうならちゃんと
こっちを向いて
しゃべってくださいよ！
もうっ！

……
嘘よ…何かの
間違いだわ…



貴方は私の使い魔だし、
ましてや私たちは女同士
じゃない…

魔法や幻惑じゃなく
正気で他人を好きになる
なんて…



パチユリー様！





わわわわ私には
貴方なんて好き
じゃないわ!



自分に正直に
なつてください、
もう我慢しなくても
いいんですよ...?



私はこんなに大きく
なつたんです。
もう小さな「小悪魔」
じゃない大人の「悪魔」
なんです

それに使い魔だとか
女同士だからとか
そんなの関係ない
じゃないですか!

タンマ

ちよ...

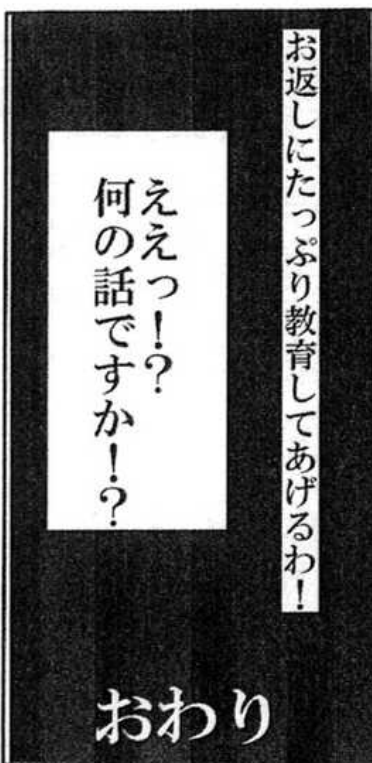


パチュリー様は魔界で一人ぼっち
だった私をこの明るくて温かい
世界に導いてくれた恩人です

使い魔になつてからも優しく
してくれたり色々なことを教えて
くれました
私パチュリー様の使い魔になれて
本当によかったです...



パチュリー様...私の大切な人
...わたしずっと...ずっと前
から貴方のことが...



おわり

あとがき

読んでいただき本当にありがとうございます。
えっとすいません…オフセット本を作るつもりだったのにコピー本です。

C79の本はパチュリーと小悪魔の会ったところのお話を書こうと決めて、最初に書いたネームの内容は1ページギャグ漫画でした。しかし2、3本ネタがでたところで詰まってしまう断念してしまいました。趣向を変えて次は「ちょっとシリアス系のバトル漫画」を書きました。しかしネームの途中の段階で40ページを軽く超えてしまい、予算の関係で没にしました。そんな感じでできたネームを没にし続けていたら、いつのまにか締め切りの7日前になっていて流石にこれはまずい…と思いましたが、いまから40ページ超えの漫画を書き上げるのはきついし、ギャグのネタもでない…それでも何かしら書かないとまずい…ということで、シリアスバトルでもギャグでもないよくわからないお話ができました。それがこのお話「©MAGENTA」です。時間軸はシリアスの時のネームに合わせて紅魔館が幻想郷に来る前のお話。キャラの服装とか容姿も少し違います。(パチュリーの帽子、美鈴のメイド服、小悪魔が小さい(?)等)

そこにギャグの方のネタででた小悪魔が「魅了」を使いパチュリーを下僕にするというネタをねじ込んだところこんな感じの話になりました。(魅了って異性にしか効かないんじゃないの?っていう疑問には途中で気付きましたが普通にスルーしました。)

最初の方のページのコマが異様に多いのはなるべくページ数を減らしたいというせこい気持ちが働いたせいです。書いてるときは何ともなかったのですが、コマが多すぎてどの順番で読めばいいのか自分でもあやしくなってしまう、今になって、とても後悔しています…

そんな感じで締切二日前に本文は完成して「わーい」と思っていたのですが、色々あって原稿を落としました。

本当に情けない…もう絶対しない…こんなこと…ちなみに9割アナログで鉛筆とシャーペンを使って書きましたが、これは別にコピ本だからというわけではなく、いつもこんな感じです。本当です。

いいわけはこれくらいにしてそろそろめます。
それではまた。

くれや

© MAGENTA

原作 上海アリス幻楽団
著者 くれや
発行所 クレヤボヤンス
印刷 千里印刷

PIXIV URL <http://www.pixiv.net/member.php?id=462851>

CLAIL VOYANCE

